
 **Authoring Studio II**

Kodak Prosperシリーズ対応機能／PDF To IJPDSコンバータ

対応コントローラ：CS410以降

【 機能説明書 】

— Version 6.00 —

2020/06 New Release



テキスト・アンド・グラフィクス株式会社

目次

1. 概要	1	
1. 1 製品構成	1	※V5.0からの差分記載あり
1. 2 変換性能	2	※V5.0からの差分記載あり
1. 3 動作環境	2	※V5.0からの差分記載あり
2. RIP設定ツール	3	
2. 1 基本操作	3	
2. 2 RIP構成の編集	6	
2. 3 PDF変換の設定	7	
2. 4 カラー分版によるRIP構成	11	
2. 5 環境設定	13	
3. PDF To IJPDSコンバータ	14	
3. 1 変換実行前の設定	14	※V5.0からの差分記載あり
3. 2 変換実行	17	
3. 3 環境設定	18	
3. 4 PDF使用フォントチェック	19	
3. 5 Read & Print設定	20	
3. 6 PDFイメージ変換設定	22	
3. 7 ページのコピー指定	23	
3. 8 IJFフォント参照設定	24	※V5.0からの差分記載あり
3. 9 フォントメンテナンスツール	25	
4. 本バージョンの制約事項について	28	※V5.0からの差分記載あり

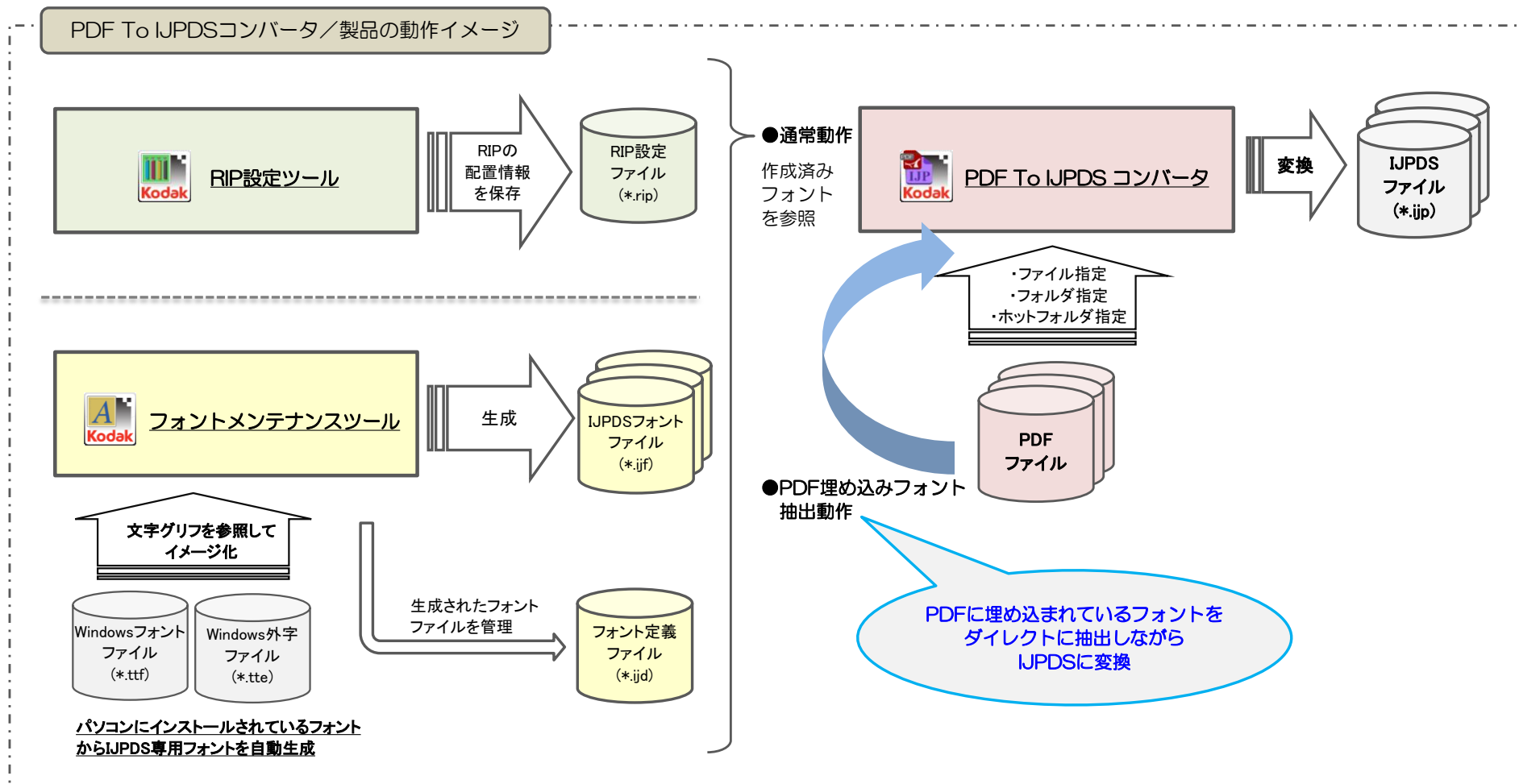
1. 概要

本製品は、PDFファイルをKodak製「Prosper Sシリーズ」のIJPDSファイル形式に変換する製品です。変換されるIJPDSファイルは任意のページ数単位に分割することが可能です。また、PDFに含まれる特定の文字列を検索して変換対象のページを判定することができます。

1.1 製品構成

本製品は、RIP領域の設定を行う「RIP設定ツール」、Windowsで使用できるTTFフォント、OTFフォント、外字(EUDC)フォントから本機能独自のIJPDSフォント形式ファイルを生産する「フォントメンテナンスツール」、およびPDFファイルをIJPDSファイルへ変換する「PDF To IJPDS コンバータ」の3つの製品で構成されます。「フォントメンテナンスツール」で作成されたIJPDSフォント形式ファイル(.ijf)と「RIP設定ツール」で作成された「RIP設定ファイル(.rip)」を介して「PDF To IJPDSコンバータ」と連携した動作を行います。

以下に、各ソフトウェアの動作イメージを示します。



1. 2 変換性能

本製品のIJPDS変換性能は、A4サイズの表裏レイアウトで、宛名、カスタマバーコード、イメージ、バーコード、QRコードが配置されたPDFで「100ページ～120ページ/秒」程度となります。（※並列動作時）

この性能値は以下の機器スペックにて測定した結果です。

機器スペック	
プロセッサ	Intel Core i9-9900K CPU (3.6GHz)
実装メモリ	16GByte
OS	Windows10 (64bit版)

※性能値は、PDFに配置されたオブジェクトの種類、数量により変化します。

1. 3 動作環境

本製品の動作環境は以下のようになります。

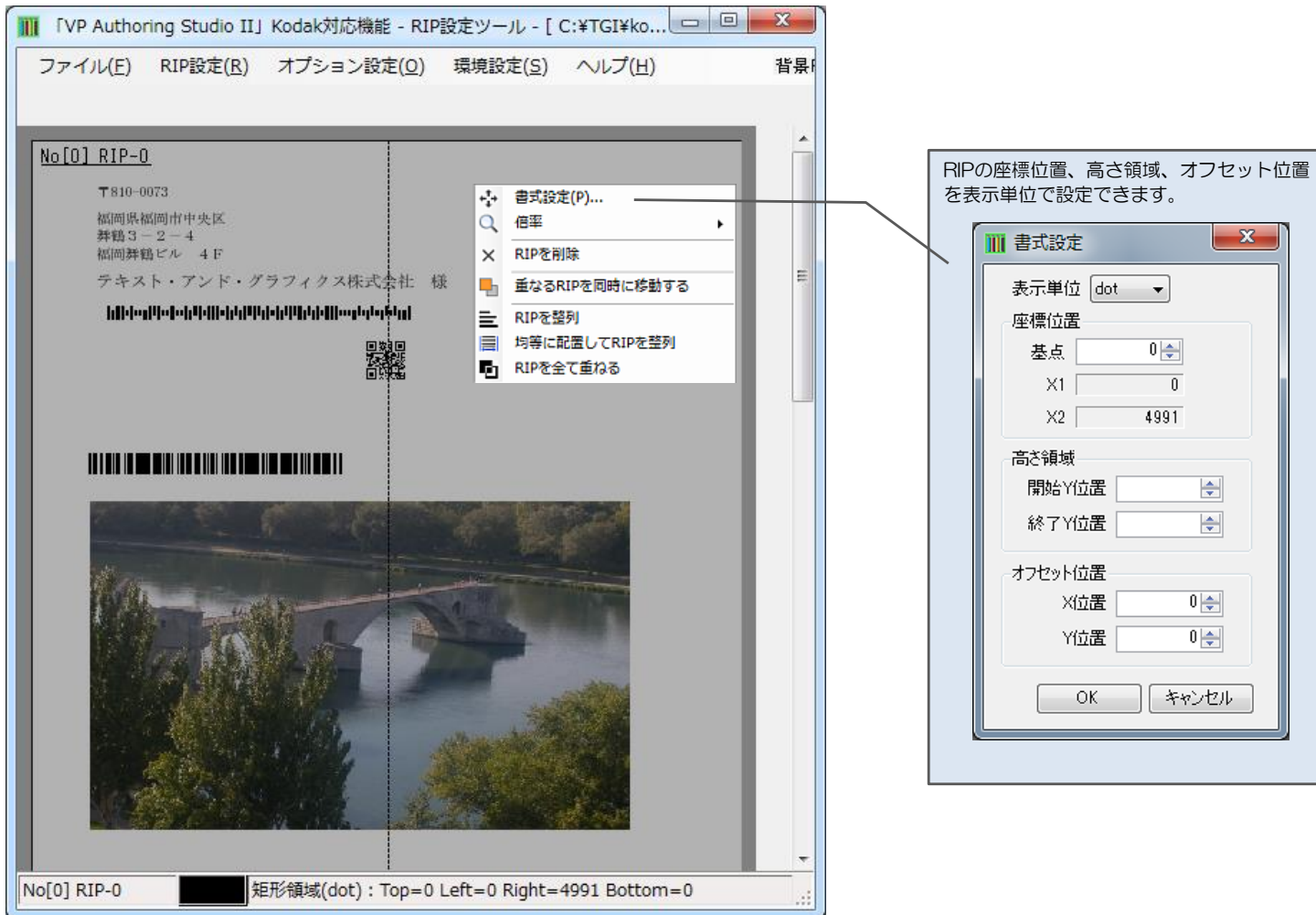
動作環境	
プロセッサ	Core i7(3GHz以上)を推奨
実装メモリ	16GB以上を推奨
OS	Windows7・Windows8・Windows10 ※64bit版のみ
.NET Framework	.NET4.0がインストールされていること
モニタ	WXGA(1280×768)以上の解像度が必要
その他	USBポート(1個) ※ハードウェアキー装着用
認証用LANアダプタ	アクティブ状態のLANアダプタ。またはUSBの無線LANアダプタ ※外部サイトへのライセンス認証用に使われます

2. RIP設定ツール

「RIP設定ツール」の機能について説明します。このツールは、IJPDS変換に使用するRIP領域を設定するためのツールです。PDFに対して各RIP領域をドラッグ&ドロップ操作で設定できます。また、Y方向位置を設定してPDFを部分的に変換することも可能です。

2.1 基本操作

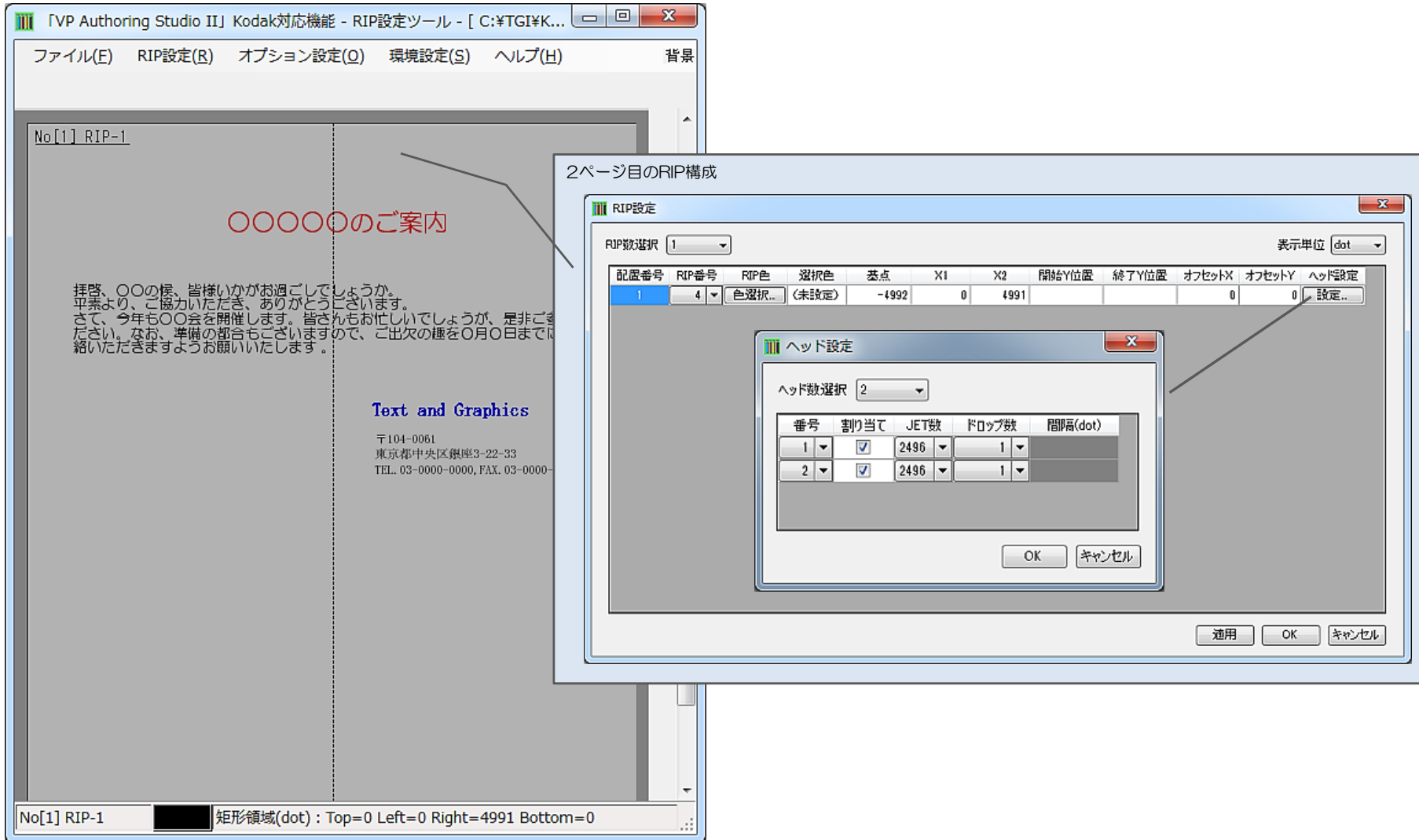
[RIP設定(R)] - [背景に使用する画像ファイルを選択(R)...] メニューより背景画像を選択します。背景画像に対してドラッグ&ドロップ操作で各RIP領域を設定することができます。また、Y方向位置を設定してPDFを部分的に変換、およびオフセット位置を設定して変換位置をずらすことも可能です。RIP領域上で右クリックメニュー [書式設定(P)...] を押下し、書式設定画面から座標を設定することもできます。



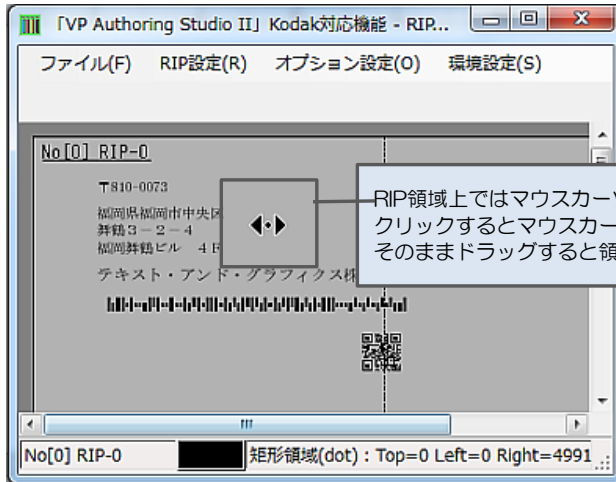
マルチページのRIP構成

変換するPDFファイルがマルチページの場合、複数のページレイアウトに合わせてRIP領域を設定することができます。[RIP設定(R)] - [新しいページの追加(A)]メニューより設定するページを追加し、[背景に使用する画像ファイルを選択(R)] から背景画像を設定するか、[用紙設定(P)...] メニューよりページのサイズを設定します。追加したページは縦に整列して表示され、ページ上でクリックすると選択状態になります。選択したページにそれぞれRIP構成を設定します。

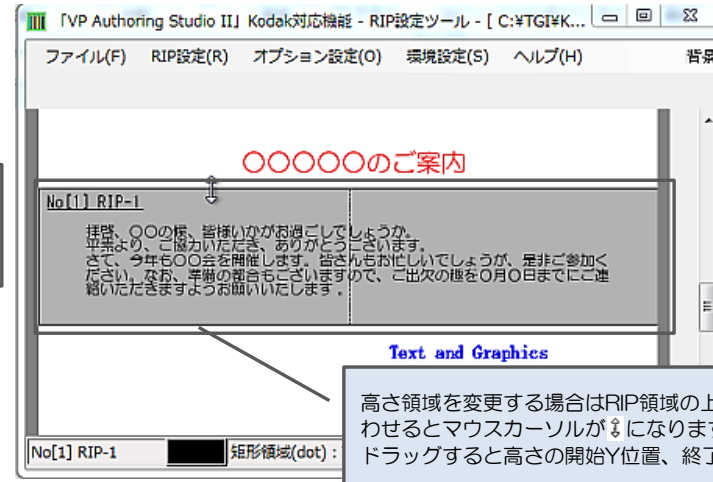
【2ページ目】



RIP領域は背景が薄いグレーで表示され、左上に配置番号、RIP番号が表示されます。RIP領域をドラッグ&ドロップ操作でRIP位置を簡単に設定することができます。また、変換する高さ領域の変更もドラッグ&ドロップ操作で設定できます。



RIP領域上ではマウスカーソルが☞になり、クリックするとマウスカーソルが☞☜☞☜になりますのでそのままドラッグすると領域を移動できます。



高さ領域を変更する場合はRIP領域の上端、下端にマウスを合わせるとマウスカーソルが☞☜☞☜になりますのでそのままドラッグすると高さの開始Y位置、終了Y位置が変更できます。

<右クリックメニュー>

設定項目	設定内容
書式設定	RIPの座標位置、高さ領域、オフセット位置を設定します。書式設定画面で対象RIPの座標を設定できます。 ※この項目はマウスカーソルがRIP領域にある場合に選択可能です。
倍率	表示する倍率を[5% ~ 100%]の範囲で選択します。
RIPを削除	対象のRIPを削除します。※この項目はマウスカーソルがRIP領域にある場合に選択可能です。
重なるRIPを同時に移動する	複数のRIPが設定され重なるRIPを同時に移動する場合に選択します。選択されている場合、RIPが重なった部分をドラッグ&ドロップすると同時に移動できます。 ※選択ページ内のRIPが対象になります。
RIPを整列	全てのRIPを基点0の状態を整列します。 ※選択ページ内のRIPが対象になります。
均等に配置してRIPを整列	複数のRIPが設定されている場合に基点となるRIP番号を指定し、指定したRIP番号の基点を他のRIPに反映されます。 ※選択ページ内のRIPが対象になります。
RIPを全て重ねる	複数のRIPが設定されている場合にRIP番号0の位置にすべてのRIPを重ねます。 ※選択ページ内のRIPが対象になります。

<書式設定>

設定項目	設定内容	
表示単位	表示単位を[mm], [inch], [dot]から選択します。	
座標位置	基点	RIPの基点を設定します。基点を設定するとX位置が自動で更新されます。
	X1	RIPの開始X位置が表示されます。
	X2	RIPの終了X位置が表示されます。
高さ領域	開始Y位置	RIPの開始Y位置を設定します
	終了Y位置	RIPの終了Y位置を設定します
オフセット位置	X位置	RIPのオフセットX位置を設定します
	Y位置	RIPのオフセットY位置を設定します

2. 2 RIP構成の編集

[RIP設定(R)] - [RIP構成の編集(E)...] メニューよりRIP構成を編集することができます。RIP数を選択すると環境設定に設定された [プリントヘッド／解像度] の値からX位置が自動で表示され、[基点] を変更すると自動で更新されます。高さ領域や変換時のオフセット位置を指定する場合は画面右上の表示単位で設定します。また、ヘッド設定からステッチング構成を設定することもできます。



<RIP設定>

設定項目	設定内容
RIP数	RIP数を選択します。
配置番号	配置番号が表示されます。
RIP番号	割り当てるRIP番号を選択します。
基点	RIPの基点を設定します。基点を設定するとX位置が自動で更新されます。
X1, X2	RIPの開始X位置・終了X位置が表示されます。
開始Y位置, 終了Y位置	RIPの開始Y位置, 終了Y位置を設定します。未設定の場合はページの上位置がRIP領域の開始Y位置, 下位置がRIP領域の終了Y位置となります。
オフセットX, オフセットY	オフセットX位置, Y位置を設定します。(※PDF To IJPDSコンバータでの変換時に反映されます)
ヘッド設定	ヘッドの設定を行います。

<ヘッド設定>

設定項目	設定内容
ヘッド数	ヘッド数を選択します。1つのRIPに複数のヘッドを割り当てることでステッチングされたヘッド構成を作成できます。
番号	割り当てるヘッド番号を設定します。
割り当て	RIPにヘッド個別の割り当てを行う場合に、チェックONにします。(デフォルトは全てチェックONです)
JET数	JET数を選択または指定します。環境設定の機種に設定された内容に合わせて設定します。 [ProsperSシリーズ] ⇒ [2496] [4インチヘッド] ⇒ [1024] [9インチヘッド] ⇒ [2688]
ドロップ数	ドロップ数を選択または指定します。特に指定が無い場合は1を設定します。

2. 3 PDF変換の設定

変換元PDFファイルの各印字項目に対してオブジェクトタイプ（固定イメージやバーコード等）を設定したり特定の印字項目（領域）を変換対象外に設定し、変換処理のパフォーマンスを向上することができます。印字項目の設定はPDFファイルから矩形領域を選択して設定します。なお、変換元のPDFが「レイアウトデザイナー」で作成されたPDFファイルの場合、レイアウトファイル(*.plp)から設定するレイアウト項目を選択することができます。バーコード、カスタマバーコード、QRコードには詳細設定からインク制御の設定、イメージにはディザリングの設定が可能です。
 [オプション設定(O)] - [PDF変換の設定(P)...] メニューよりPDF変換の設定画面を開きます。

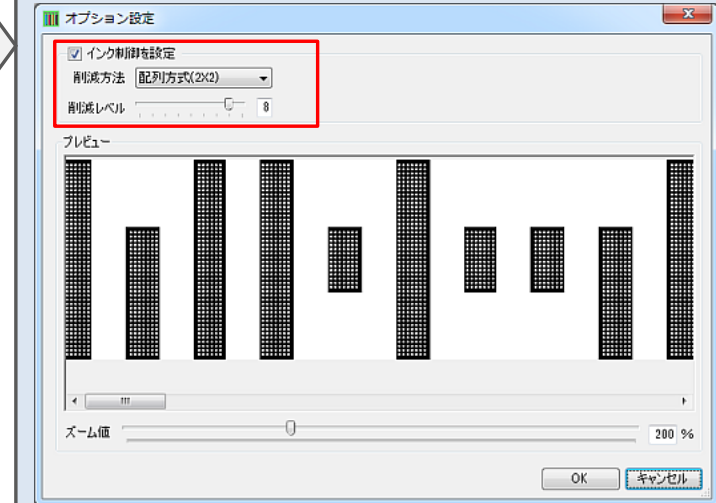


設定項目	設定内容
プロジェクト参照	レイアウトファイル(*.plp)を設定します。
レイアウト名・ページ名	設定されたレイアウトファイル(*.plp)のオブジェクト情報を取得するレイアウト、ページ名を選択します。 [選択] ボタンを押下するとページ内に存在するオブジェクトが一覧に表示されます。
選択	個別設定対象の項目をチェックONにします。
RIP番号	RIP番号を入力します。区切り文字=カンマ(,)で複数設定可能です。
番号	項目番号が表示されます。
オブジェクト種別・X位置・Y位置・幅・高さ	オブジェクトの種別、X座標、Y座標、幅、高さが表示されます。
回転	矩形領域の設定で設定された回転が表示されます。
変換対象外	変換対象外にする場合、チェックONにします。
タイプ	PDF変換時の設定タイプを以下から選択します。 [Read & Print], [置換する文字列], [バーコード], [カスタマバーコード], [QRコード], [固定イメージ], [可変イメージ]
矩形領域判定	矩形領域の判定を選択します。重なり合う画像領域がある場合に使用します。“しない”の場合、幅・高さを含めずX・Y位置が範囲内であるか判定し、“する”を選択した場合、幅・高さを含めて矩形領域の判定します。
詳細設定	バーコード、カスタマバーコード、QRコードのインク制御やイメージのディザリングを設定します。
オフセット	移動するオフセットX・Yを設定します。対象RIP番号で指定した番号（カンマ(,)で複数設定可能）にのみ反映されます。
背景画像	インク制御やディザリング設定を行う場合に対象のオブジェクトが設定されているPDFファイルを設定します。ページ番号を設定後、[読み込み] ボタンを押下するとオプション設定画面のプレビューに取得したイメージ、バーコードが表示されます。

【詳細設定】カスタマバーコード、バーコード、QRコード



カスタマバーコード、バーコード、QRコードのインク制御を設定します。背景画像にオブジェクトが出力されたPDFを選択し[読み込み]ボタンを押下します。一覧より対象のオブジェクトを選択し[詳細...]ボタンを押下すると[オプション設定]画面が表示され、プレビューに読み込んだオブジェクトが表示されます。プレビューにインク削減の状態が都度反映されるので、削減状態を確認しながら [削減方法]、[削減レベル]を指定することができます。

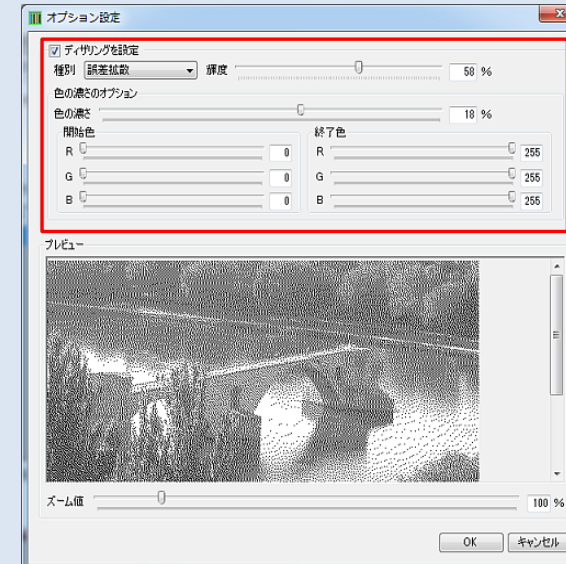
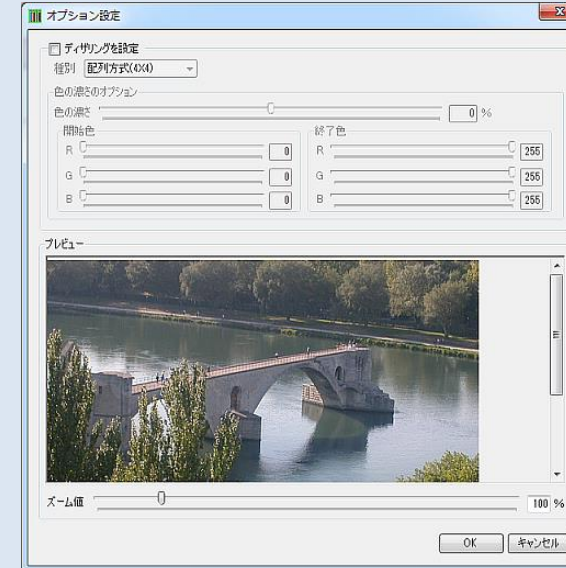


設定項目	設定内容
インク制御を設定	インク制御を設定する場合にチェックONにします。
削減方法	削減方法を以下から選択します。 [配列方式(2x2)], [配列方式(4x4)], [誤差拡散]
削減レベル	削減レベルを[1~9]の範囲で設定します。
輝度	輝度を [10%~90%] の範囲で設定します。 ※この設定は削減方法が「誤差拡散」の場合に設定可能です。
ズーム値	プレビューのズーム値を指定します。

【詳細設定】 イメージ



イメージのディザリングを設定します。背景画像にオブジェクトが出力されたPDFを選択し「読み込み」ボタンを押下します。一覧より対象のオブジェクトを選択し「詳細...」ボタンを押下すると「オプション設定」画面が表示され、プレビューに読み込んだオブジェクトが表示されます。プレビューに選択されたイメージのディザリング状態が都度反映されるので確認しながら「種別」「輝度」、「色の濃さ」を指定することができます。



設定項目	設定内容
ディザリングを設定	ディザリングを設定する場合にチェックONにします。
種別	種別方法を以下から選択します。 [配列方式(4x4)], [配列方式(渦巻型)], [配列方式(網点型)], [誤差拡散]
色の濃さオプション	色の濃さ、開始色、終了色を指定します。
輝度	輝度を [10%~90%] の範囲で設定します。 ※この設定は削減方法が「誤差拡散」の場合に設定可能です。
ズーム値	プレビューのズーム値を指定します。

矩形領域を選択して指定

レイアウトファイル(*.plp)が存在しない場合は選択した背景画像から直接矩形領域を指定して設定することができます。[矩形領域を選択して指定(A)...] ボタンを押下すると背景画像選択の確認メッセージが表示されますので、[はい] を押下し背景画像を選択すると[矩形領域の設定] 画面に選択した背景画像が表示されます。設定する領域をドラッグ & ドロップで選択後、矩形領域上で右クリックメニュー [領域を設定] を押下し [矩形領域の設定] 画面に設定するRIP番号、オブジェクトのタイプ等詳細情報を設定後 [OK] ボタンを押下すると [レイアウト項目の個別設定] 一覧に追加されます。

選択した矩形領域の項目内容を設定します。

矩形領域の設定

RIP番号 0

タイプ カスタムバーコード

回転 なし

X座標 19.897 Y座標 47.837

幅 96.943 高さ 8.467

OK キャンセル

RIP番号 : 項目を設定するRIP番号を選択します。

タイプ : 項目のタイプを以下より選択します。
 [Read & Print], [置換する文字列], [バーコード], [カスタムバーコード]
 [QRコード], [固定イメージ], [可変イメージ]
 ※[置換する文字列]は設定された矩形領域の文字列をオプション設定画面で設定された文字列に置換して変換することができます。

回転 : 変換時の回転率を設定します。[なし], [90度], [180度], [270度]

X座標 : 項目のX座標を設定します。

Y座標 : 項目のY座標を設定します。

幅 : 項目の幅を設定します。

高さ : 項目の高さを設定します。

<右クリックメニュー>

設定項目	設定内容
領域を設定	選択した領域をレイアウト項目として設定します。
設定をクリア	設定済みの領域をクリアします。*マウスカーソルが選択領域上にある場合にメニューが有効になります。
倍率	プレビューの表示倍率を[10%~100%]から選択します。
ズーム画質を補正する	ズーム画質を補正します。
全てクリア	設定済みの矩形領域の設定を全てクリアします。
領域サイズ変更	領域サイズを変更します。*プレビューの背景画像を選択していない場合のみ使用できます。

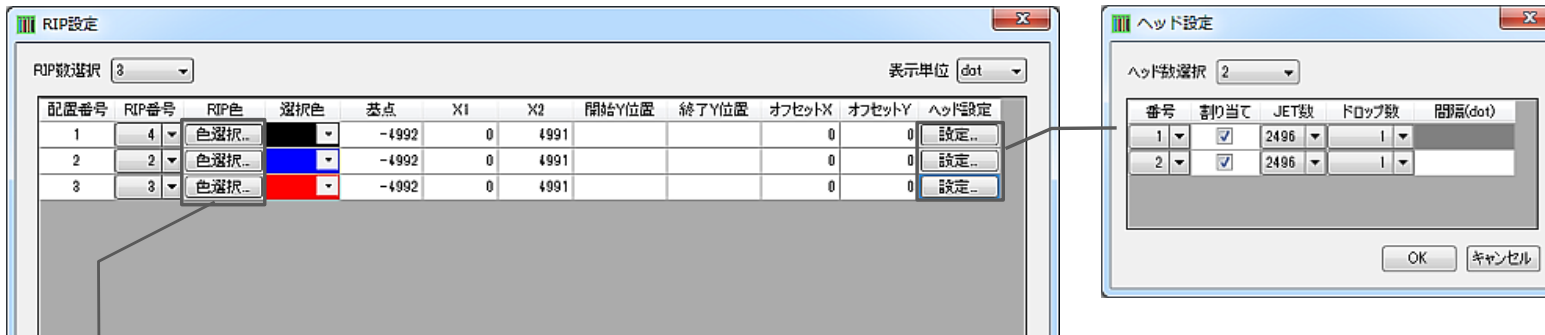
<矩形領域の枠線の色>

グレー	未設定の選択された矩形領域を表します。
青	設定済みの矩形領域を表します。
赤	設定済みの矩形領域が選択された状態を表します。

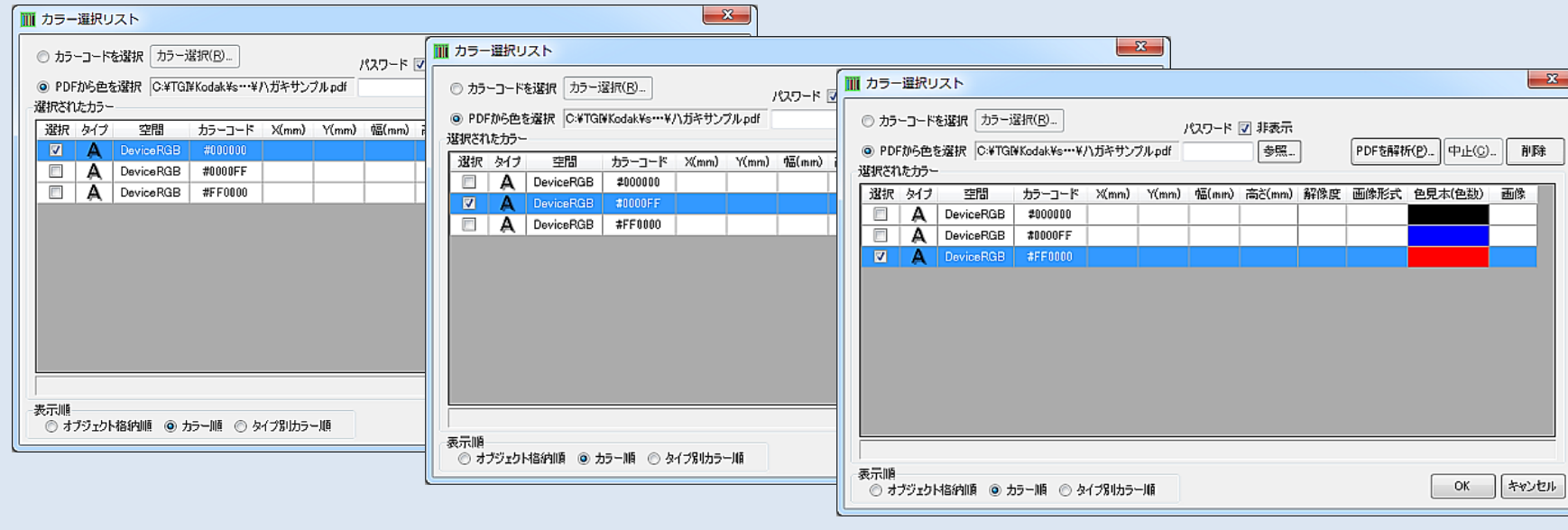
2. 4 カラー分版によるRIP構成

変換するPDFファイルに複数の色が使用されている場合、PDFのオブジェクトカラー別に分散したRIPデータが生成できます。[RIP設定(R)] - [RIP構成の編集(E)...]メニューより[RIP設定]画面を開き、設定するRIPの[色選択...]ボタンをクリックして[カラー選択リスト]画面を開きます。設定する色は直接カラーコードを指定するか、変換するPDFファイルを解析しオブジェクト一覧から選択して設定します。変換するPDFに使用されている色は全て各RIPに設定します。設定されていない色が存在した場合は[RIP-O]に変換されます。

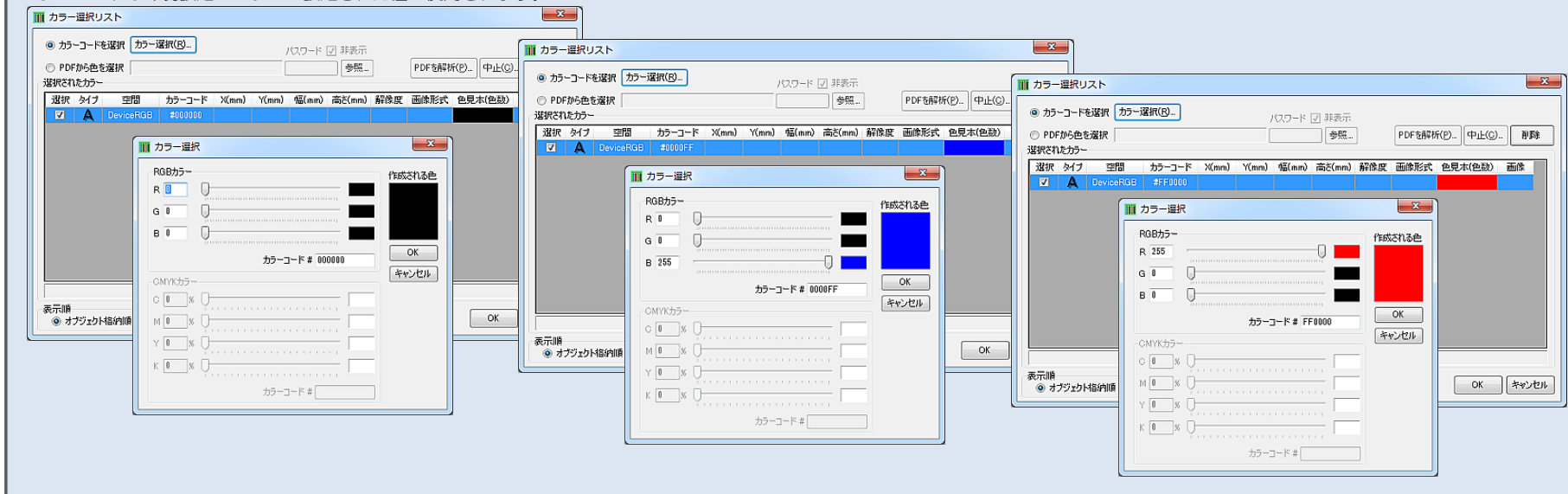
以下はA4サイズのPDFを機種：「ProsperS(600x600dpi)」のJPDSファイルに変換するためのRIP設定の例です。3つのRIPを重ねて設定しそれぞれのRIP色に黒・赤・青を設定します。また、各RIPはステッチング構成にしています。メイン画面で背景画像を設定している場合は「PDFから色を選択」がデフォルト選択され、背景画像ファイルが設定されます。



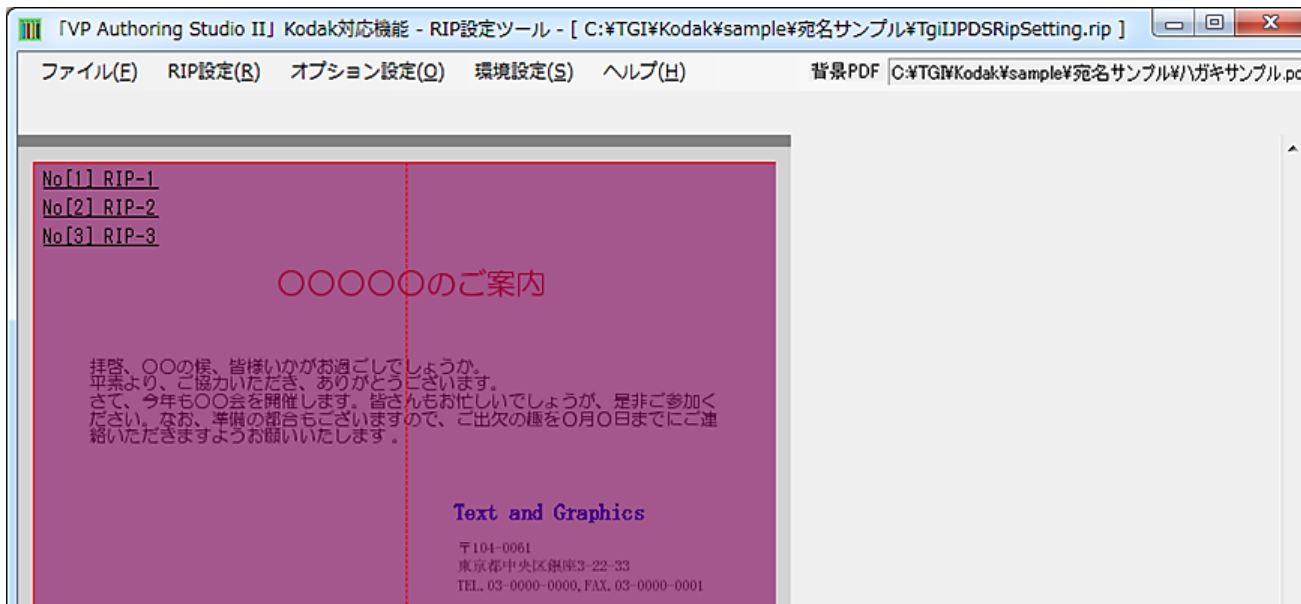
[PDFから色を選択]を選択し、[参照]ボタンよりPDFファイルを選択後[PDFを解析(P)...]ボタンを押下します。解析ページ範囲を指定し[OK]ボタンを押下すると使用されているカラー一覧が表示されます。**※PDF解析は時間がかかりますのでページ範囲を最小限に設定して実行してください。**[RIP-O]には黒を設定しますので、一覧より黒を選択します。バーコードや罫線等は[DeviceGray]で解析される場合がありますので、[DeviceGray]も選択します。[OK]ボタンを押下すると[RIP設定]画面の[RIP-O]の選択色に設定された色が表示されます。



色の選択はカラーコードを選択して設定することもできます。[カラーコードを選択]を選択後、[カラー選択(R...)]ボタンを押下しカラー選択画面から設定します。カラーモードが [RGB] の場合はカラー選択画面のRGBカラーコードを設定、[CMYK] の場合はカラー選択画面のCMYKカラーコードを設定します。カラーモードは環境設定のカラーに設定された値が使用されます。

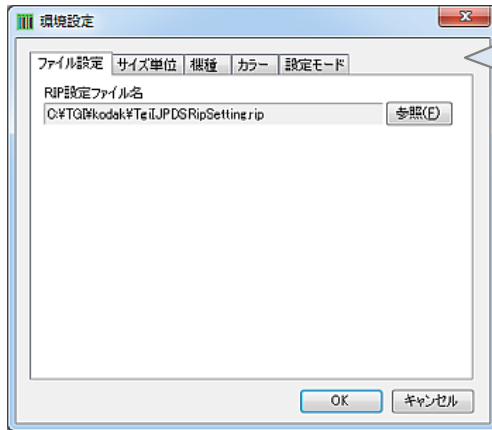


メイン画面のRIP領域の背景は設定されたRIP色で表示されます。3つのRIPを重ねて配置した場合、左上に3つのRIP番号が表示されそれぞれの「RIPに設定された色が合成された色」で表示されます。また、ヘッドがステッチング構成の場合はヘッド間が点線で表示されます。



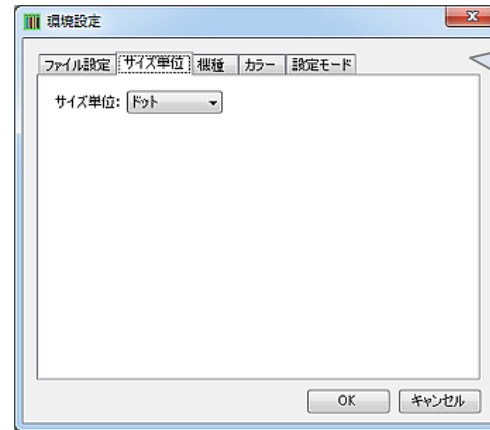
2.5 環境設定

RIP設定ツール全般の環境を設定します。



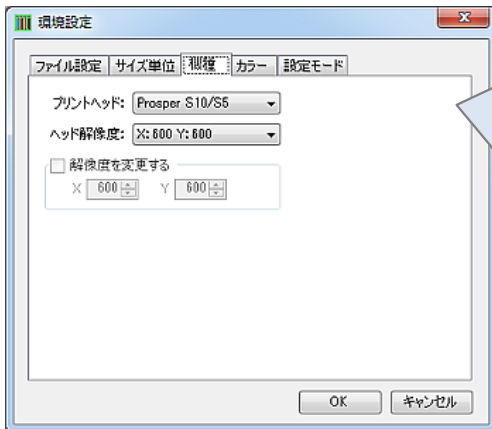
【ファイル設定】

RIP設定ツール起動時に初期表示として読み込むRIP設定ファイルを設定します。



【サイズ単位】

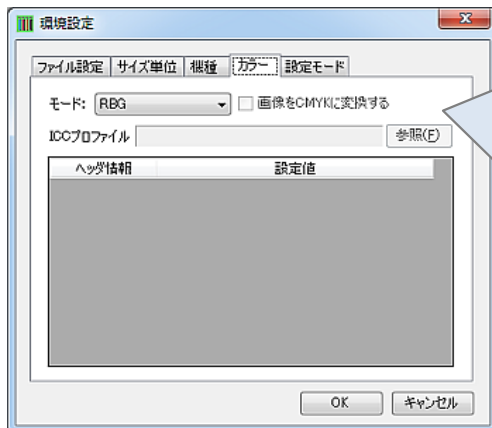
領域を指定する単位を設定します。
[ドット / ミリメートル / インチ]の設定が可能です。



【機種】

使用するプリンタのプリントヘッドとヘッド解像度を設定します。

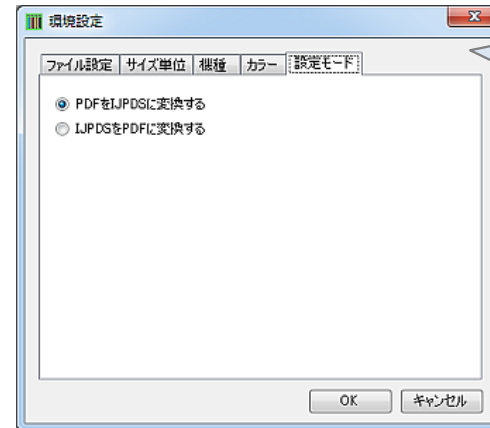
- プリントヘッドは以下より選択できます。
[4インチヘッド] ⇒ Scitex6240
[9インチヘッド] ⇒ Versamark
[Prosper S10/S5]
[Prosper S20]
[Prosper S30]
- 複数のヘッド解像度がある機種では解像度を選択します。
- 解像度を変更する
※この機能は「PDF To IJPDS」コンバータでは使用できません
「IJPDS To PDF」コンバータで有効となる機能です



【カラー】

カラーモードを設定します。
[RGB]を選択してください

※この機能は「PDF To IJPDS」
コンバータでは使用できません。
「IJPDS To PDF」コンバータ
で有効となる機能です



【設定モード】

RIP情報を使用する設定モードを選択します。

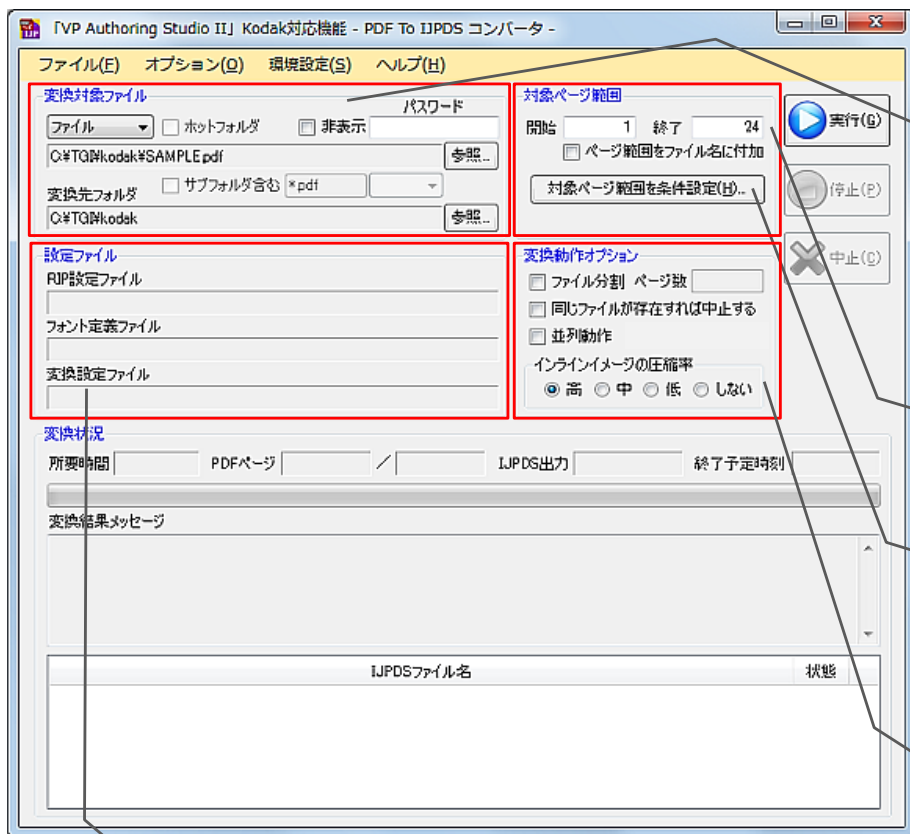
※この設定は変更できません

3. PDF To IJPDS コンバータ

「PDF To IJPDSコンバータ」の機能について説明します。この機能は「RIP設定ツール」で作成されたripファイルと「フォントメンテナンスツール」で作成されたIJPDSフォント形式ファイルを参照し、PDFファイルをIJPDSファイルに変換するためのツールです。PDFファイルを解析しながらripファイルに定義されたRIP情報に関連付けながらIJPDSに変換を行います。

3. 1 変換実行前の設定

IJPDS変換を行う前に操作する内容を説明します。ここで設定される内容は変換設定ファイル(p2j)に保存ができます。次回変換時は、このp2jファイルを開くことで、再設定をすることなく変換が実行できます。



変換対象ファイル

- 変換対象となるPDFファイルを選択します。選択は単一ファイル、またはフォルダ一括で指定できます。
- フォルダ指定の場合はホットフォルダの指定、およびサブフォルダ検索有無、ワイルドカード指定が可能です。
- 変換先フォルダはPDFファイルと同じフォルダが表示されますが、任意のフォルダに変更ができます。

対象ページ範囲

- 変換対象とするページ範囲を指定します。未指定の場合は全ページが対象となります。

対象ページ範囲を条件設定

変換対象とするページ範囲の条件指定が可能です。条件を設定して対象ページを抽出、ページ内のテキストを検索して判定、および検索テキストをファイルから参照しての抽出が可能です。

変換動作オプション

- IJPDSファイルを分割する設定が可能です。分割するページ数を指定します。
- 変換対象となる同じ名前のIJPDSファイルが存在する場合は変換を停止します。この設定がOFFの場合には、同名のIJPDSファイルは上書きされます。
- 並列動作を指定します。
- インラインイメージの圧縮率を選択します。

設定ファイル

- 「RIP設定ツール」で作成したripファイルを選択します。
(デフォルトのripが予め選択済みです。この選択は任意です)
- 「フォントメンテナンスツール」で作成したijdファイルを選択します。
(デフォルトのijdが予め選択済みです。この選択は任意です)
- 変換設定ファイル(p2j)が開かれている場合には、ここにファイル名が表示されます。
※デフォルトのripファイル、ijdファイルは環境設定に定義されたファイルです。

変換動作オプション

ファイル分割、並列動作、インラインイメージの圧縮率など、変換実行時の動作オプションを設定します。

●ファイル分割

IJPDSファイルを指定したページ数で分割して作成することができます。

イメージやバーコードが多数存在するPDFファイルを変換する場合、分割することでIJPDSファイルサイズの肥大化を防ぐことができます。

●同じファイルが存在すれば中止する

OFF：同じファイルが存在する場合、上書きします。

ON：同じファイルが存在する場合、変換を中止します。

●並列動作

OFF：1ページずつ順次変換します。CPU・メモリ消費が少ない動作となります。

ON：並列動作で複数ページを一括変換します。CPU・メモリの消費は多くなりますがOFF時よりも高速動作となります。※CPUのコア性能により差が出ます

注)「環境設定」において「実行時のトレース情報出力」にて[RIPイメージを出力]が選択されている場合はこの設定は無効化されます

●インラインイメージの圧縮率

高：一括で1ブロック内に収まるか試みます。失敗した場合は分割で複数ブロックに圧縮します。全ての圧縮に失敗した場合には無圧縮に切り替えます。

中：一括で1ブロック内に収まるか試みます。失敗した場合は無圧縮に切り替えます。

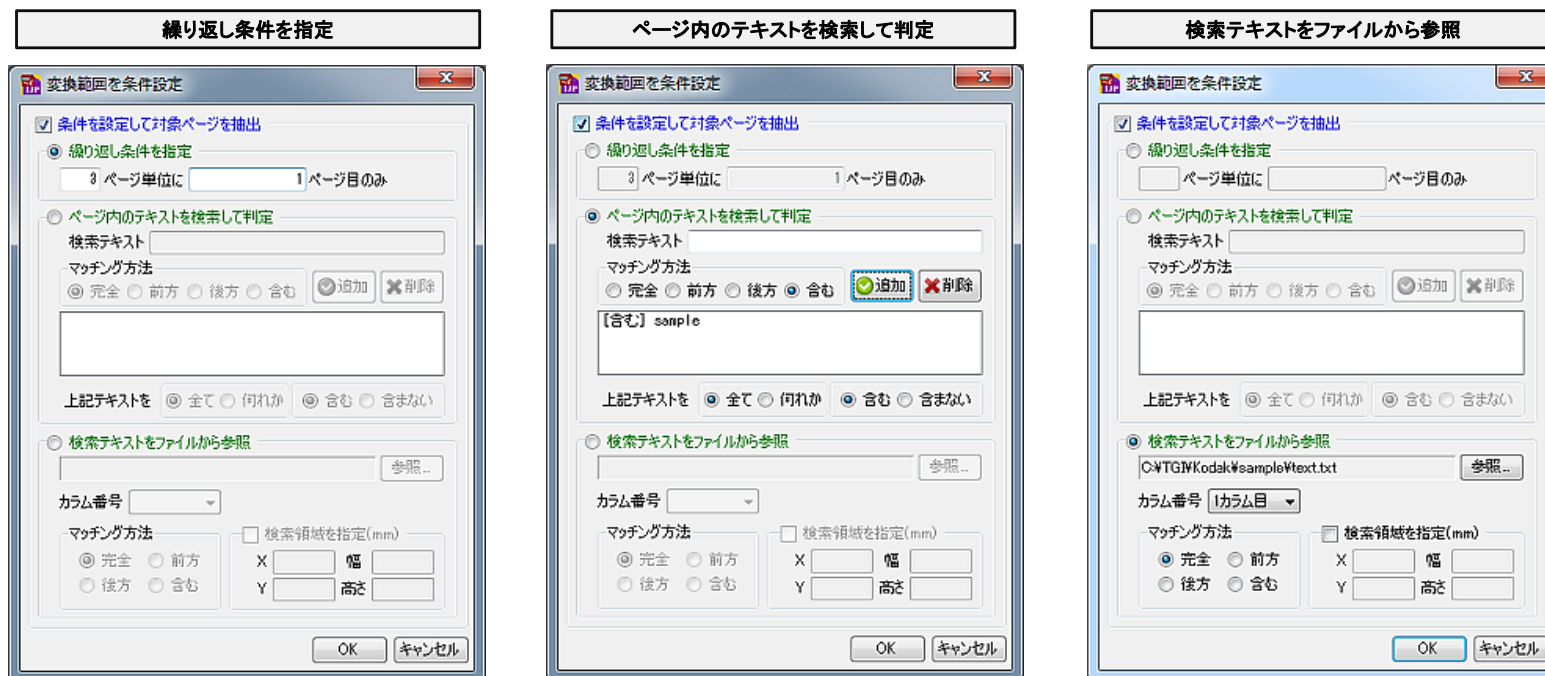
低：分割で複数ブロックに圧縮を試みます。失敗した場合は無圧縮に切り替えます。

しない：無圧縮で処理します。圧縮時間はかかりませんが変換されるIJPDSファイルサイズは増大します。

※1ブロックのサイズ=4,096バイト

対象ページ範囲を条件設定

変換対象となるPDFファイルは以下の各種条件を設定して抽出対象となるページを条件指定することができます。



●繰り返し条件を設定

奇数/偶数ページを抽出する場合、特定のページ番号を指定する場合に設定します。

抽出ページの指定には、カンマ区切りによるページ番号の指定、ハイフン区切りによるページ番号の範囲指定が可能です。

例) [10] ページ単位に [1,3-5,7,8] ページ目のみ ⇒ 10ページごとに1,3,4,5,7,8の計6ページが抽出対象となります。

●ページ内のテキストを検索して判定

1 括りが可変ページ数のマルチページで宛名ページのみ抽出する場合、郵便番号の上3桁が指定した値のページを抽出する場合、特定の名前を含むページのみ抽出する場合などに使用します。

マッチング対象のページ内テキスト範囲はフィールドとして認識される範囲が1区切りとなります。

(住所など複数に印字されている場合は別フィールドとして認識されます)

※この抽出方法では、PDFページ内のテキスト情報を全件抽出しながらマッチング検索しますので条件の設定によっては変換性能が低下する場合があります。

○マッチング方法

完全：検索テキストと完全一致するか判定します

前方：検索テキストが前方に含まれるか判定します

後方：検索テキストが後方に含まれるか判定します

任意：検索テキストが含まれるか判定します

○複合条件

全て +含む : 指定された検索テキスト全てを含む場合に対象となります

全て +含まない : 指定された検索テキスト全てを含まない場合に対象となります

何れか+含む : 指定された検索テキストの何れか含む場合に対象となります

何れか+含まない : 指定された検索テキストの何れか含まない場合に対象となります

●検索テキストをファイルから参照

外部ファイルに設定された文字列に該当するページを抽出する場合に設定します。エラー時に再印刷必要な管理番号が格納されたCSVなどを利用できます。

参照するファイルは [文字コード=Shift-JIS、括り文字=なし、区切り文字=カンマ(,)、改行コード=CRLF、先頭タイトル行=なし] の形式で作成します。

検索文字列が設定されたファイルを[参照]ボタンより選択し、検索文字が設定されているカラム位置を設定します。

また、PDFページから検索する領域を指定することも可能です。

○マッチング方法

完全：検索テキストと完全一致するか判定します

前方：検索テキストが前方に含まれるか判定します

後方：検索テキストが後方に含まれるか判定します

任意：検索テキストが含まれるか判定します

○検索領域を指定

PDFページから検索する領域を指定する場合、チェックONにします。

X : 検索する領域の開始X座標

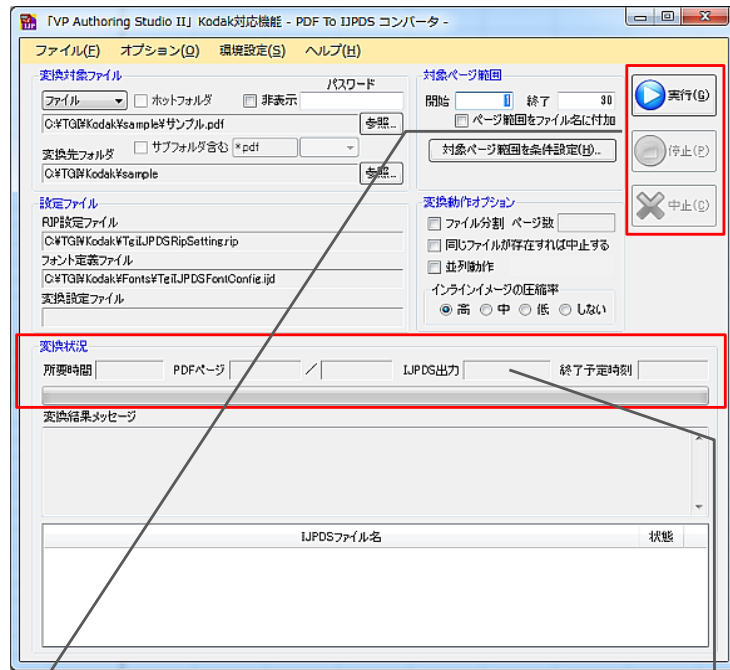
Y : 検索する領域の開始Y座標

幅 : 検索する領域の幅

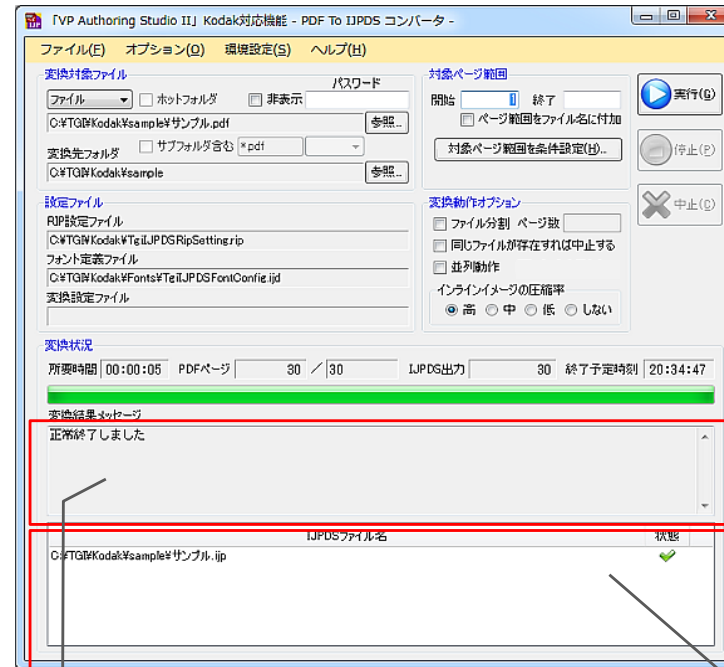
高さ : 検索する領域の高さ

3. 2 変換実行

IJPDS変換の実行操作を説明します。変換実行は[実行] ボタン押下のみの操作です。変換実行中は、所要時間・終了予定時刻、および進捗ステータスが表示されます。また、何らかのエラーが発生した場合には変換結果メッセージに詳細内容が表示されます。



変換終了



[実行] [停止] [中止]

- [実行]
IJPDS変換を実行します
- [停止]
IJPDS変換を停止します。再度押下することで変換を再開します。
- [中止]
IJPDS変換を中止します。
実行中の場合は、一旦停止して中止を行います。

変換状況

- IJPDS変換中は、所要時間、進捗状況（変換ページ数）、および終了予定時刻（目安）が表示されます

変換結果メッセージ

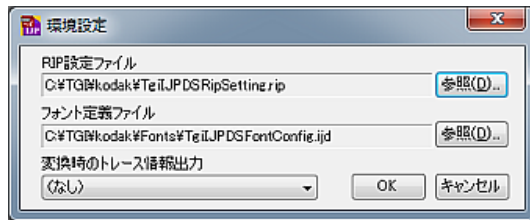
- IJPDS変換が終了時には、変換結果のメッセージが表示されます。
エラーが発生した場合には、詳細のエラー内容が表示されます。

変換結果のIJPDSファイル一覧

- 変換されたIJPDSファイル名の一覧が表示されます。ダブルクリックで変換されたIJPDSファイルを開くことができます（この操作には「Kodak IJPDS Proofer」がインストールされている必要があります）
- エラーが発生したIJPDSの場合は[×]アイコンが表示されます。ダブルクリックでエラー詳細を確認することができます。

3.3 環境設定

デフォルトのRIP設定ファイル、フォント定義ファイル、およびトレース情報の有無を設定します。



RIP設定ファイル名

デフォルトのRIP設定ファイルを設定します。メイン画面のRIP設定ファイルが表示されていない場合はこのファイルが使用されます。

フォント定義ファイル

デフォルトのフォント定義ファイルを設定します。メイン画面のフォント定義ファイルが表示されていない場合はこのファイルが使用されます。

変換時のトレース情報出力

IJPDS変換時のトレース情報がログファイルに出力されます。出力レベルを以下より選択します。

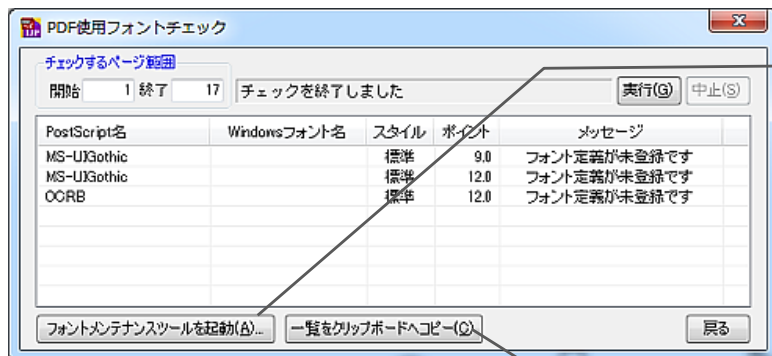
- (なし) : 出力しません。
- レコード情報のみ : IJPDSファイルへ出力するレコード情報を出力したログファイル(*.log)、レコード種別の集計ファイル(*.sum)を出力します。
- +レコードのパラメータ値を出力 : ログファイルにレコード内の設定値情報を追加して出力します。
- +レコードのダンプリストを出力 : ログファイルにバイナリのダンプデータを追加して出力します。
- +RIPイメージを出力(※並列指定時は選択不可)
: ログファイルにフォント・イメージのテキストイメージ、リソース情報として全てのリソースファイルをTIFFで個別に出力します。またIJPDSへのイメージ出力部分のリソースを出力します。

3. 4 PDF使用フォントチェック

PDF使用フォントチェック操作を説明します。選択したPDFファイルに使用されているフォント情報を取得し、IJPDSフォント形式ファイルが作成済みであるかをチェックします。未作成のフォントは「フォントメンテナンスツール」から作成します。

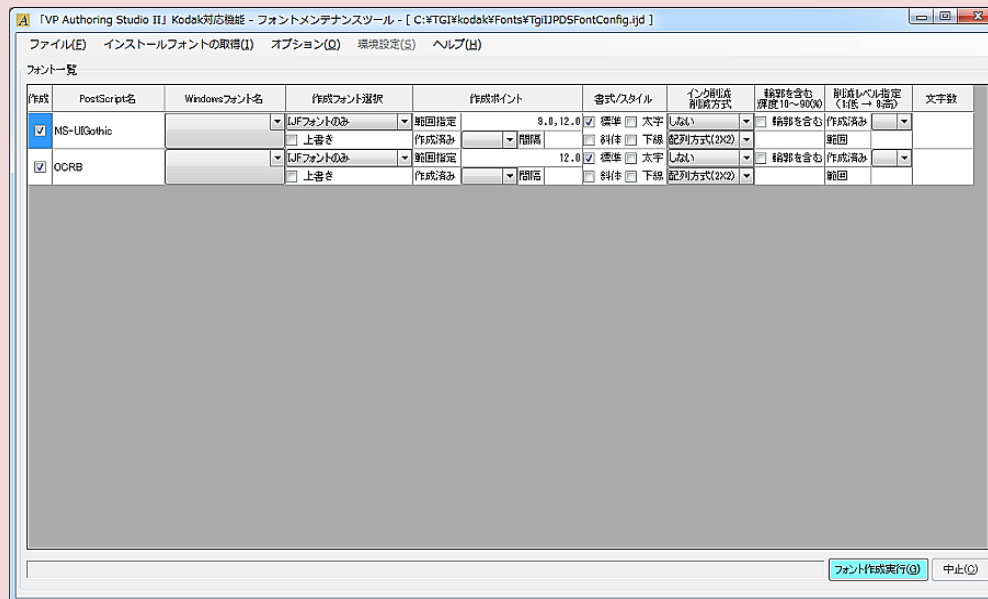
[実行] ボタンを押下すると設定された変換PDFファイルに使用されているフォントを検索し、IJPDSフォント定義に登録されていないフォントが一覧に表示されます。[フォントメンテナンスツールを起動(A)...] ボタンを押下し、「フォントメンテナンスツール」を起動すると未定義のフォントが一覧に表示されます。

※変換するPDFファイルのページ数が多い場合、全てのページをチェックすると時間がかかりますのでチェックするページ範囲を指定することを推奨します。デフォルトは全てのページNOが表示されます。



フォントメンテナンスツールを起動

メイン画面で設定されたフォント定義ファイルの情報が表示され、未登録のフォントが一覧に追加されます。フォント一覧より作成するフォントを選択し作成チェックボックスをチェックONにします。Windowsフォント名を選択し、[フォント作成実行(G)] ボタンを押下するとIJPDSフォントが作成されます。



使用する外字ファイルが個別に設定されている場合この外字に該当するフォントは存在チェックから除外されます。

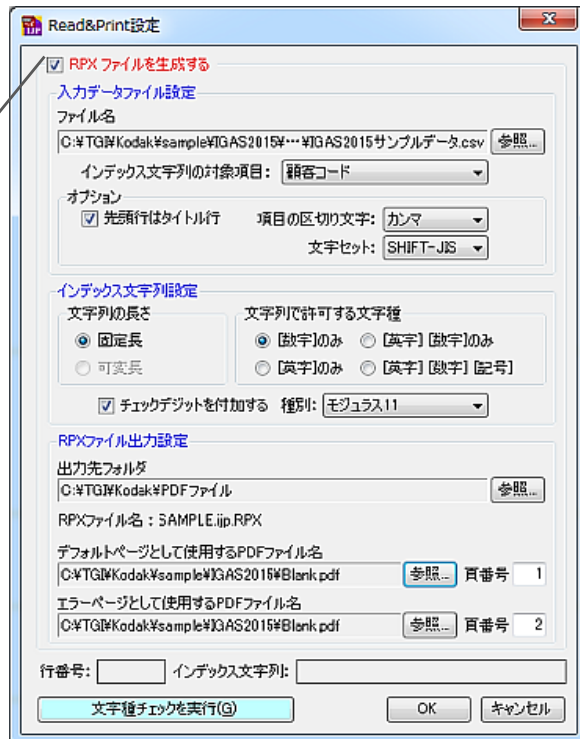
「3. 8 IJFフォント参照設定」を参照

一覧をクリップボードへコピー(C)

●一覧に表示された内容をクリップボードにコピーされます。テキストファイルに保存しフォントメンテナンスツールで読み込むことが可能です。

3. 5 Read & Print設定

この機能は、Kodak/ProsperにてRead&Print動作を運用する場合に参照されるRPXファイル作成のための設定画面です。Read&Print動作では、インデックスファイルとなるRPXファイルを参照してIJPDSファイルからターゲットのページデータをリアルタイムに検索しながら印字する動作を行います。ここではRPXファイルを生成するための設定を行います。



※ Read&Print機能はProsper特有の拡張機能です

本製品のご購入時にオプション機能として
付加された場合 にのみご使用できます。

■RPXファイルを生成する

このチェックをONにすることで「Read&Print」機能の各種設定を行うことができます

●入力データファイル設定

RPXファイルの検索用インデックス文字列として設定されるデータが格納されたテキストファイルを選択します。通常はPDFを作成したときに使用された入力ファイルを指定します。

○インデックス文字列の対象項目

インデックス文字列の対象となる項目列を選択します。選択されたファイルの先頭行の項目が選択リストとして表示されますのでこのリストから対象項目を選択します。
インデックス文字列の対象となる項目データは指定されたファイル内の全ての同一項目において一意となるデータの必要があります。またデータ長は全て同じである必要があります。

○オプション

- 先頭行はタイトル行
このチェックがONの場合には、選択された入力データファイルの先頭行をタイトル行として読み飛ばしを行います。
- 項目の区切り文字
入力データファイルの項目間の区切り文字を選択します。選択可能な区切り文字は [カンマ]、[タブ]、[空白] です
区切り文字を間違えた場合は「インデックス文字列の対象項目」選択リストが正常に表示されなくなります。
- 文字セット
入力データファイルの文字セット（文字コード）を選択します。選択可能な文字セットは [SHIFT-JIS]、[UNICODE]、[UTF-8] です
文字セットを間違えた場合は「インデックス文字列の対象項目」選択リストが文字化けして表示されます。

●インデックス文字列設定

インデックス文字列の書式、およびチェックデジット編集の有無を指定します。

○文字列の長さ

現在のバージョンでは選択できるのは「固定長」のみです。

○文字列で許可する文字種

インデックス文字列として許可される文字種を設定します。RPXファイル生成時は、この設定に従いインデックス文字列の文字種がチェックされ、これに反するデータが見つかった場合にはエラーとして変換動作を停止します。変換動作中のエラー停止を防ぐためにこの設定画面の[文字種チェックを実行]ボタンで事前に文字種チェックを実行しておくようにしてください。

○チェックデジットを付加する

インデックス文字列にチェックデジットを付加してRPXファイルへ格納する場合にチェックをONにします。
チェックデジットの種類は [7DRチェック]、[9DRチェック]、[7DSRチェック]、[9DSRチェック]、[モジュラス 10/W2]、[モジュラス 10/W3]、[モジュラス11]、[モジュラス16]、[モジュラス43]、[モジュラス103]、[加重モジュラス11]、[ルーンズ] が選択可能です。

●RPXファイル出力設定

○出力先フォルダ

RPXファイルを格納する出力先フォルダを設定します。初期状態ではIJPDSファイルの出力フォルダと同じ場所が選択されています。
RPXファイル名は出力されるIJPDSファイル名に拡張子“.RPX”が付加されたファイル名になります。
このファイル名は変更することはできません。

○デフォルトページとして使用するPDFファイル名

Read&Print動作において「インデックス文字列検索の結果、該当ページが存在しない」場合に印字されるページイメージを指定します。
任意のPDFファイル、ページ番号が指定できます。

○エラーページとして使用するPDFファイル名

Read&Print動作において「何らかの動作エラーが発生した」場合に印字されるページイメージを指定します。
任意のPDFファイル、ページ番号が指定できます。

●文字列チェックを実行

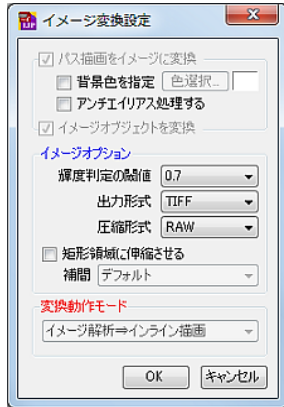
このボタンを押下することで入力データファイルのインデックス文字列データが指定された文字種の範囲内かである動作チェックを行うことができます。このチェックを行なわないまま「OK」ボタンでこの画面を閉じようとした場合は「警告メッセージ」が表示されますが設定の内容には影響しませんので「はい」を押下して画面を閉じてください。

※Read&Print設定時のIJPDS変換ページ数について

Read&Printを設定した変換動作では、PDFからIJPDSへ変換される対象ページ数に2ページが加算されてコンバータ画面へモニタ表示されます。
+2ページとなるのは、変換対象となるPDFにデフォルトページとエラーページの2ページが加算されてIJPDSに変換されるためです。

3.6 PDFイメージ変換設定

PDFイメージ変換設定の機能について説明します。変換するPDFファイルに格納されているバーコードや図形のパス描画をイメージに変換してIJPDSを作成することができます。また、イメージオブジェクトを変換対象に含めるかの設定も可能です。変換する場合は設定した形式に変換されます。[パス描画をイメージに変換][イメージオブジェクトを変換]設定はデフォルトチェックONです。チェックOFFにするとバーコードや図形のパス描画部分、イメージオブジェクトは変換対象外になります。



●パス描画をイメージに変換

PDFに格納されているバーコードや図形のパス描画部分をイメージに変換します。※この設定は変更不可です。

○背景色を指定

背景を透過する場合に指定します。透過する色を[色選択]ボタンから選択します。

○アンチエイリアス処理をする

画像データのアンチエイリアス処理を行う場合に指定します。

※バーコードなどがベクトルデータで描画されている場合、アンチエイリアス処理を行うと輪郭部分のドットが欠落する場合があります。

○イメージオブジェクトを変換

PDFに格納されているイメージオブジェクトをIJPDSの変換対象とします。※この設定は変更不可です。

●イメージオプション

○輝度判定の閾値

: [0.1~0.9]の範囲で指定します。

○出力形式

: [TIFF]、[JPEG]から選択します。

○圧縮形式

: [RAW]、[JPEG]、[FLATE]、[LZW]、[CCITT_G4]、[CCITT_G3]、[JBIG2]から選択します。

○矩形領域に伸縮させる

: 矩形領域に合わせて伸縮する場合に指定します。※伸縮動作は画像の再描画処理を伴いますので変換動作が低下します。

※PDFに格納されたイメージの解像度が変換するIJPDSの解像度に満たない場合はこの設定を必ずONにしてください。

・補間

: イメージを伸縮する場合の補間設定を選択します。以下より選択してください。

双一次補間(Bilinear)

⇒ ※写真などを伸縮させる場合に選択してください

高品質双一次補間(H.Q Bilinear)

⇒ ※写真などを伸縮させる場合に選択してください。高品質ですが変換速度は低下します。

双三次補間(Bicubic)

⇒ ※写真などを伸縮させる場合に選択してください

高品質双三次補間(H.Q Bicubic)

⇒ ※写真などを伸縮させる場合に選択してください。高品質ですが変換速度は低下します

最近傍補間(NearestNeighbor)

⇒ ※バーコード画像などを伸縮させる場合に選択してください

●変換動作モード

: PDFに使用されているイメージの変換動作を指定します。(※このバージョンではこの動作モードの変更は出来ません)

[イメージ解析⇒インライン描画]

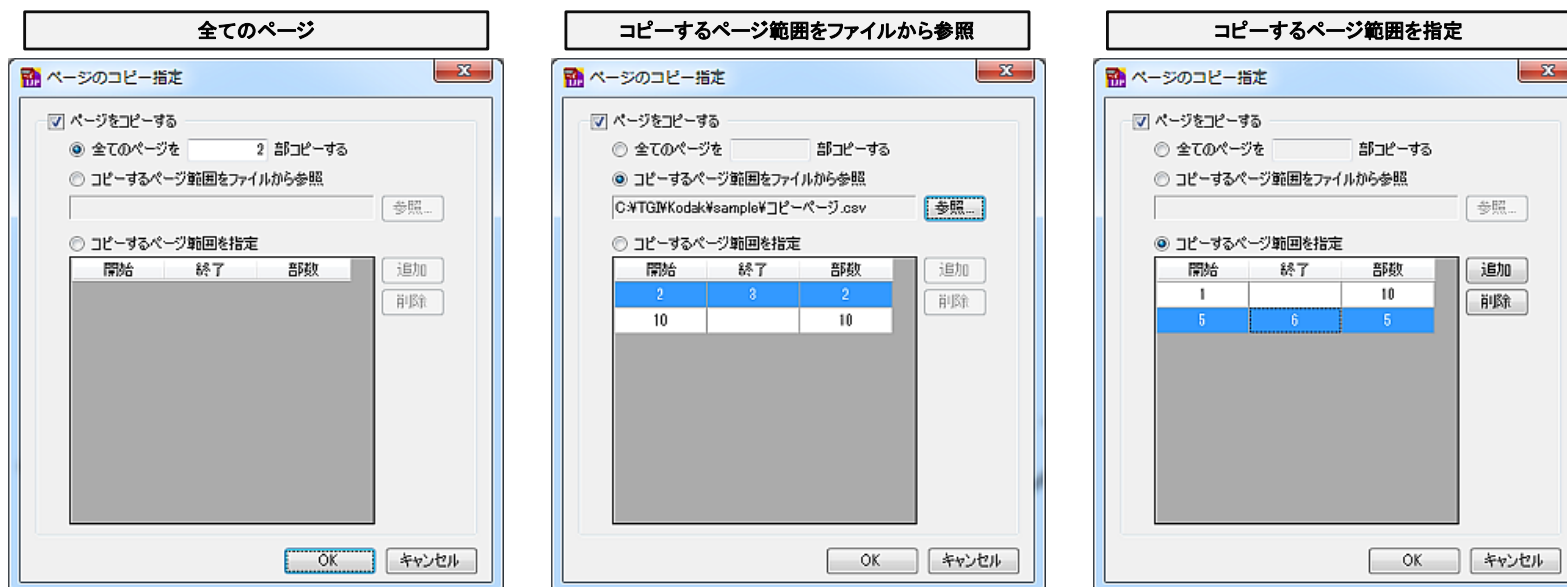
: 使用されている画像が異なる場合に指定します。

異なる画像のうち、いくつか同じ画像が使用されている場合に指定すると変換動作が

[インライン描画]より上昇しますが画像をキャッシュしながら変換しますのでメモリは消費します。

3.7 ページのコピー指定

ページのコピー指定機能について説明します。変換するPDFのページを指定した部数分コピーして作成することができます。単一のページ、範囲指定など複数のページを設定でき、また外部ファイルに設定して参照することも可能です。



●全てのページを[]部コピーする

PDFの全てのページをコピーする場合に指定します。コピーする部数を設定します。

[例] 5ページのPDFを2部コピーした場合 ⇒ [1,1,2,2,3,3,4,4,5,5]のページが作成されます。

●コピーするページ範囲をファイルから参照

コピーするページの情報ファイルを参照する場合に指定します。[参照]ボタンを押下し、ファイルを選択すると一覧に表示されます。

設定するファイルは[開始ページ],[終了ページ],[部数]をカンマ(,)区切りで指定します。単一のページを指定する場合は終了ページを空にします。ファイルは「文字コード=Shift-JIS、括り文字=なし、区切り文字=カンマ(,)、改行コード=CRLF、先頭タイトル行=なし」の形式で作成します。

[例] 10ページのPDFに対し以下の定義がされているファイルを設定した場合

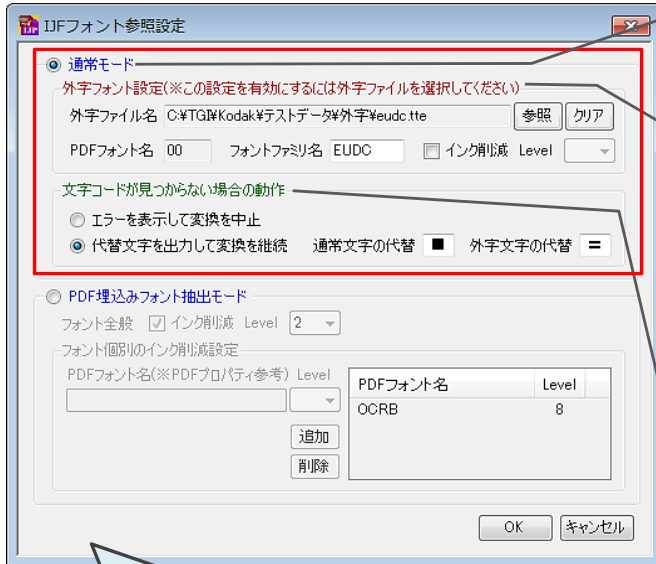
1, 3, 5	⇒	[1, 1, 1, 1, 1, 2, 2, 2, 2, 2, 3, 3, 3, 3, 4, 4, 4, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10]
4, 4, 3		

●コピーするページ範囲を指定

コピーするページ範囲を直接設定する場合に指定します。[追加]ボタンを押下し一覧に追加された行に開始ページ、終了ページ、コピーする部数を設定します。終了ページを指定しない場合は開始ページを単一ページとしてコピーします。

3. 8 IJFフォント参照設定

変換動作において、PDFで使用されている外字ファイルの指定、および生成されているIJFフォントに該当文字コードが存在しなかった場合の挙動を設定します。



通常モード
この動作モードは予め[フォントメンテナンスツール]で作成されたIJFフォントを参照して変換するモードです。但し指定された外字ファイルは実行時に逐次変換されます

外字フォント設定

PDFに格納された外字データを変換する場合は、PDF作成時に使用された外字ファイルの設定が必要です。**[外字ファイル]**を選択することでこの設定は有効になります

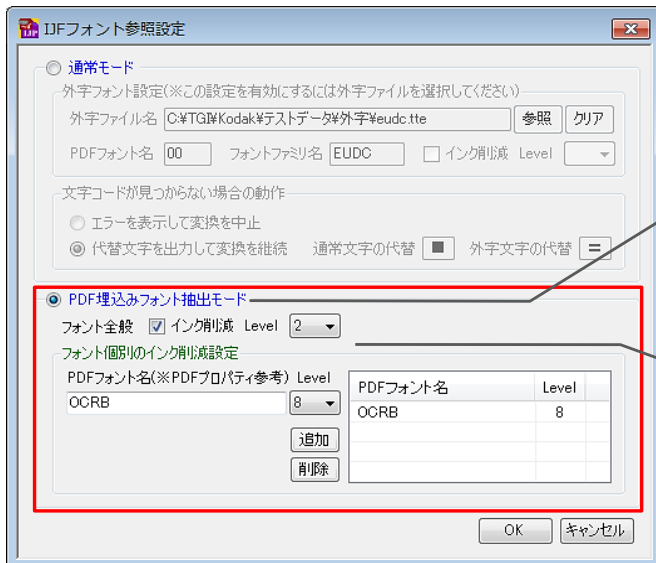
- 外字ファイル名**
使用する外字ファイルを選択してください。外字の設定を無効にするには[クリア]ボタンを押下します
- PDFフォント名**
PDFに埋め込まれているPostScriptフォント名です。この設定は変更できません。
※「VP Authoring Studio II」のレイアウトデザイナーではこのフォント名は“OO”で作成されます
- フォントファミリ名**
指定した外字ファイルが持つフォントファミリ名を設定します。この名前は通常“EUDC”ですが異なる場合もありますので外字フォントのプロパティ等で確認して設定してください。
- インク削減 Level : 1~8(1=最小に削減、8=最大に削減)**
指定した外字文字をIJPDSのフォントへ変換する場合にインク削減(インクリダクション)を行うかを設定します。
※インク削減については「3. 9 フォントメンテナンスツール」を参照ください

※IJFフォントの詳細は「3. 9 フォントメンテナンスツール」を参照ください

文字コードが見つからない場合の動作

変換対象となるPDFに使用されている文字コードがIJFフォントに存在しない場合の挙動を設定します。

- エラーを表示して変換を中止**
IJFフォントファイルに変換対象の文字コードが存在しない場合
変換時のメッセージ画面にエラーの詳細が表示され変換動作は停止します。
- 代替文字を出力して変換を継続**
IJFフォントファイルに変換対象の文字コードが存在しない場合
代替文字を出力して変換動作は継続されます。メッセージ画面には何も表示されません。
通常文字の代替：外字コード以外の文字コードが未登録の場合に代替で変換される文字を指定
外字文字の代替：外字コードが未登録の場合に代替で変換される文字を指定



PDF埋込みフォント抽出モード
この動作モードは実行時にPDFへ埋め込まれているフォントを抽出して逐次変換するモードです。この動作は[VP Authoring Studio II]以外の他社ソフトウェアで作成されたPDFを変換する場合のみご使用ください

- フォント全般 インク削減 Level : 1~8(1=最小に削減、8=最大に削減)**
抽出したフォント全てに対して適用されるインク削減設定です。
- フォント個別のインク削減設定**
フォント名を個別に指定してインク削減を行う場合に設定します。
[追加]でリスト登録、[削除]でリスト削除を行います
PDFフォント名：PDFに埋め込まれているPostScriptフォント名です。PDFの[プロパティ]情報で確認します
Level : 1~8(1=最小に削減、8=最大に削減)

3.9 フォントメンテナンスツール

「フォントメンテナンスツール」は単独で起動し、変換処理を行う前に事前にフォントファイルを作成することができます。フォント定義ファイル(.ijd)をダブルクリックするか、インストールフォルダの「TgilJPDSFontConfigTool.exe」から起動できます。環境設定に保存された「フォント定義ファイル名」の定義ファイル(.ijd)の設定内容が表示されます。なお、設定した内容はフォント定義ファイル(.ijd)に保存できます。

The screenshot shows the 'Font Maintenance Tool' window with a table of font configurations and a detailed view of the 'MS 明朝' font.

作成	PostScript名	Windowsフォント名	作成フォント選択	作成ポイント	書式/スタイル	インク削減削減方式	輪郭を含む 深度10~90(%)	削減レベル指定 (1は低→8は高)	文字数
<input type="checkbox"/>	MS-UIGothic	MS UI Gothic	生成しない <input type="checkbox"/> 上書き	範囲指定 作成済み	(選択) 間隔	<input checked="" type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 太字	しない	作成済み	
<input type="checkbox"/>	OCR-B	OCR-B	生成しない <input type="checkbox"/> 上書き	範囲指定 作成済み	(選択) 間隔	<input checked="" type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 太字	しない	作成済み	
<input checked="" type="checkbox"/>	MS 明朝	MS 明朝	IJFフォントのみ <input type="checkbox"/> 上書き	範囲指定 作成済み	9-12 1	<input checked="" type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 太字	しない	作成済み	

フォントファイル詳細表示

作成されたIJPDSフォント情報が表示されます。メイン画面でインク削減を [する] が設定されている場合、右クリックメニュー

[書式のインクレベル切替え(I)...] ではPDFからIJPDSへの変換実行時に使用する削減レベルを変更できます。また右クリックメニュー [フォントファイルを削除] を押下すると作成されたIJPDSフォントファイルが削除されます。

10ポイントの太字は [インク削減レベル：2] でIJPDSに変換されます。

書式のインクレベル切替え(I)...
フォントファイルを削除

書式のインクレベル切替え

書式/スタイル インクレベル
太字 0
0
2
OK キャンセル

作成するフォントの追加は右クリックメニューの [行を追加(A)] をクリックすると、フォント一覧に行が追加されます。また [インストールフォントの取得(I)] メニューよりインストールされているフォント情報が一覧に表示されますので、作成するフォントの作成チェックボックスをチェックONにし、作成ポイントを設定して [フォント作成実行(G)] ボタンを押下するとチェックしたフォントのIJPDSフォントが一括で作成できます。なお、フォント定義ファイル (.ijd) はフォント作成実行後に自動で保存されます。

<フォント一覧>

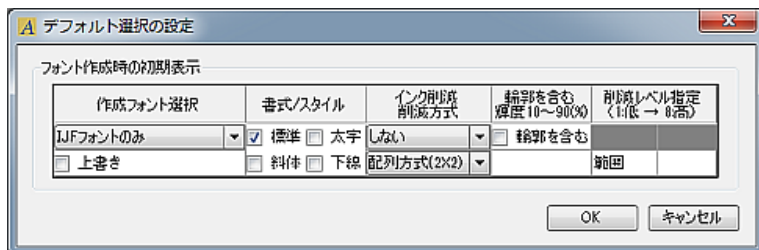
設定項目		設定内容
作成		フォント作成を行う場合チェックONにします。
PostScript名		PostScript名を設定します。
Windowsフォント名		Windowsフォント名を設定します。
作成フォント選択		フォント作成の種別を選択します。 [作成しない] 作成対象外になります。(作成チェックボックスがチェックOFFになります) [IJFフォントのみ] フォントファイルのみ作成します。 [IJF+文字イメージ(TEXT)] フォントファイルとテキストイメージファイルを作成します。 [IJF+文字イメージ(TIFF)] フォントファイルとTIFFイメージファイルを作成します。
作成ポイント	範囲指定	作成するフォントサイズを設定します。カンマ(,)区切りによる複数設定や(-)での範囲設定ができます。
	作成済み	既に作成済みのポイントが存在する場合にコンボボックスリストに表示されます。
	間隔	範囲指定に設定されたポイントから作成する間隔を設定します。 (例: 範囲指定に[7-14]、間隔に[2.0]を設定した場合、[7,9,11,13]のフォントが作成されます。)
書式/スタイル		作成する書式/スタイルを選択します。
インク削減	有無	インク削減の [する] / [しない] を設定します。
	削減方式	インク削減 [する] の場合のみ削減方式を [配列方式(2X2)], [配列方式(4X4)], [誤差拡散] から選択します。
	輪郭を含む	インク削減 [する] の場合に輪郭も削減対象に含めるかを設定します。
	輝度 10~90(%)	インク削減 [する] の場合に輝度を [10~90] の範囲で設定します。 ※削減方式に [誤差拡散] が設定された場合のみ設定可能です。
	削減レベル指定	インク削減 [する] の場合に削減レベルを設定します。[1:低 → 8:高] の範囲で設定します。
文字数		フォント作成実行後、作成した文字数が表示されます。

<右クリックメニュー>

設定項目	設定内容
行を追加	一覧の最後に新規行が追加されます。
行を削除	一覧の選択行を削除します。(フォントファイルは削除されません。)
選択範囲の作成をチェック	一覧の選択行の作成チェックボックスをチェックONにします。
選択範囲の作成を解除	一覧の選択行の作成チェックボックスをチェックOFFにします。
フォントファイルの詳細表示	一覧の選択行のフォントファイルの詳細情報が表示されます。(作成済みのフォントが対象になります。)

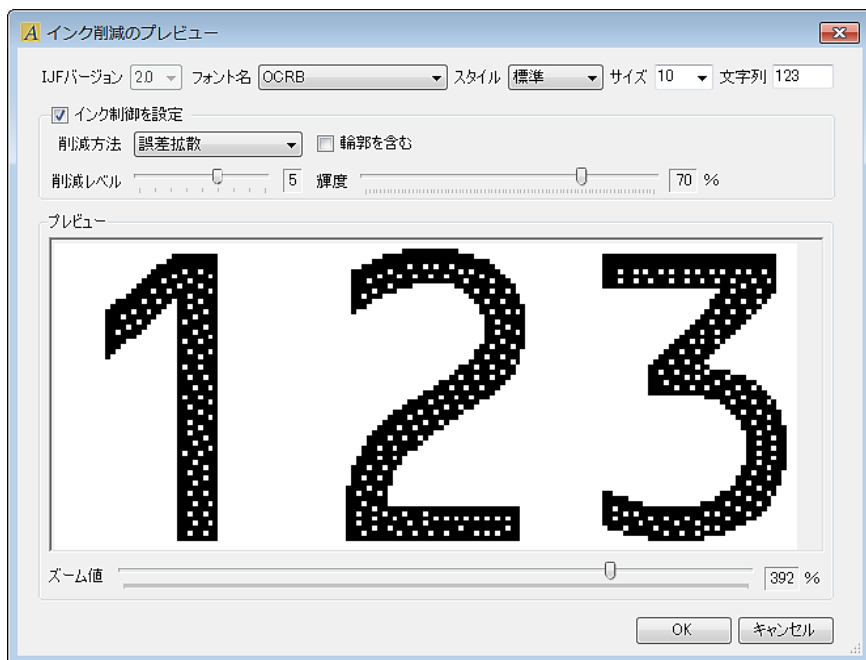
デフォルト選択の設定

右クリックメニュー [行を追加] で一覧に追加された行に表示するデフォルト値を設定することができます。[オプション(O)] - [デフォルト選択の設定(F)...] メニューより [デフォルト選択の設定] 画面を表示し、[作成フォント選択] ~ [削減レベル指定] までの値を設定後、OKボタンを押下します。選択チェックボックスをチェックONにすると設定したデフォルト値が表示されます。



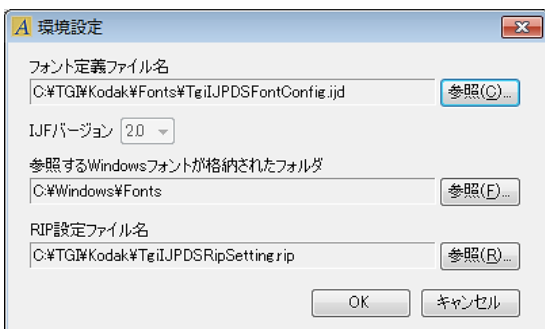
インク削減のプレビュー

インクの削減を行う場合、削減方式、削減レベルのイメージをプレビューで確認することができます。確認したいフォントを一覧から選択し[オプション(O)] - [インク削減のプレビュー表示(P)...]メニューを押下するとインク削減プレビュー画面が表示されます。フォントは複数選択可能です。確認したいフォント、スタイル、サイズを選択し、文字列を入力するとプレビューが表示されます。インク制御の設定内容に合わせてプレビューが更新されます。



設定項目	設定内容
IJFバージョン	IJFフォントバージョン(※選択不可。2.0固定です)
フォント名	メイン画面で選択したフォント名がコンボボックスリストに表示されます。プレビューするフォントを選択します。
スタイル	プレビューするスタイルを選択します。
サイズ	プレビューするフォントサイズを設定します。
文字列	プレビューする文字列を入力します。
インク制御を設定	インク削減する場合、チェックONにします。
削減方法	削減方法を選択します。
輪郭を含む	文字の輪郭部分も含めてインク削減する場合チェックONにします。
削減レベル	削減レベルを設定します。
輝度	輝度を設定します。 ※削減方法が[誤差拡散]の場合のみ設定可能です。
ズーム値	プレビューのズーム値を設定します。

環境設定



フォント定義ファイル名

フォント定義ファイル名を指定します。ここで設定されたフォント定義ファイルはフォントメンテナンスツール起動時に初期表示されます。

参照するWindowsフォントが格納されたフォルダ

Windowsフォントフォルダが格納されたフォルダを指定します。ここで設定されたフォルダは「インストールフォントの取得」時または「Windowsフォント名」選択時に参照されます。

IJFバージョン

IJFフォントバージョン(※選択不可。2.0固定です)

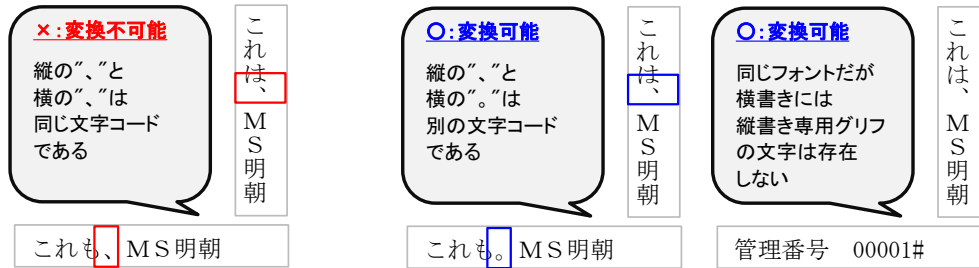
RIP設定ファイル名

4. 本バージョンの制約事項について

(1) 「縦書き」への対応

「3. 8 IJFフォント参照設定」において「PDF埋込みフォント抽出モード」を選択してください。

但し、以下のように「同じフォント」において「同じ文字コード」の「横書き用グリフと縦書き用グリフ」が混在しているPDFは正常に変換できません。



(2) 「OpenType」フォントが使用されたPDFへの対応

「3. 8 IJFフォント参照設定」において「PDF埋込みフォント抽出モード」を選択してください。

「通常」モードではOpenTypeフォントはご使用になれません。

(3) 長体・平体への対応

弊社ソフト「VP Authoring Studio II」で長体・平体（フォントの幅、高さ伸縮）をご使用になる場合

長体＝幅を100%より縮めて高さは100%で設定し文字自体の大きさはポイント数で調整してください
 平体＝高さを100%より縮めて幅は100%で設定し文字自体の大きさはポイント数で調整してください

※幅、高さ双方に100%でない値を設定した場合はPDF上は文字ポイント数が変更され正しい変換結果になりません

(4) 「VP Authoring Studio II」以外のソフトウェアで作成されたPDFをご使用になる場合

●PDFで使用されているフォントを所有されている場合

所有されているフォントをWindows上にインストールして変換を行ってください。

●PDFで使用されているフォントを所有されていない場合

「3. 8 IJFフォント参照設定」において「PDF埋込みフォント抽出モード」を選択してください。

注) この動作モードでは「サロゲートペア文字」が長体・平体に変形されて格納されているPDFは変換することは出来ません。
 この場合は「通常モード」に切替えてPDFで使用されているフォントを別のフォントで代替して変換を行ってください。
 フォントの代替は「3. 9 フォントメンテナンスツール」にて登録できます。

※他社製のソフトウェアで作成されたPDFの変換につきましては動作保証の対象外とさせていただきます。

(5) 「PDF埋込みフォント抽出モード」について

PDFの構造によってはフォント情報が正常に取り出せない場合があります。
 テクニカルサポートは受け付けておりますが動作保証は出来ない場合がございますのでご了承ください。